

住みこなしながら積み重ねていくマンション・コミュニティの工夫

～北区衣笠学区衣笠グリーンハイツの取組～

衣笠グリーンハイツは、築38年の住戸数143戸のファミリー型の分譲マンションです。京都市内でも屈指の高経年マンションですが、暮らしの中で出てきたニーズに柔軟に対応し、様々な工夫を積み重ねることで、住民同士の顔の見えるマンション・コミュニティを生み出し、良好なマンション管理と自治運営を保ち続けています。今回はその工夫のほんの一部を紹介します。

なお衣笠グリーンハイツは建設当初は立地する町内会に所属していましたが、間もなくマンション独自で自治会を結成し、衣笠自治連合会に所属しています。その後、昭和57年の区分所有法の制定とともに管理組合も結成しています。

工夫の一例としては、子供の会や大人の会、女性の会など、自治会活動での交流が活発に行われているほか、管理組合活動や自治会活動に関する広報紙を年5回以上発行して情報共有を深めています。

他にも建設当初から全住戸の表札、メールボックス、案内板に氏名が出されており、どこに誰が住んでいるかが分かりやすくなっています。また20年ほど前からは各住戸を

内線でつなぎ部屋番号で無料通話ができるようにもしました。さらに2年ほど前からは希望する独居等の高齢者に行う、週一回の安否確認にも活用されているなど、マンション住民の高齢化にも対応されています。また転入者の増加に対応して、15年ほど前からは、区分所有者や賃借人に関わらず新たな入居者には「入居者の手引き書」を渡し、入居者と管理組合役員による挨拶の場を設けるなど、お互いが顔の見える関係になるように工夫をしています。（田中志敬）



お話を伺った、沼田理事長（左）と小島副理事長（右）。集会室の棚には、設立以来のマンションの記録が全て保存されている。